

二〇二二年二月一日(参加者二五名)

御朱印を貰ひし宮の梅探る	こすもす
探梅の紀州のどこも海明り	よう子
千切りの包丁の音春隣	かかし
日々変わる赤子の笑顔春近し	ぼんこ
海晴れて真青き空や春隣	わかば
籠り居を解き探梅の小半日	うつぎ
退院の目処を聞きゐる春隣	やよい
探梅のどの道行くも坂がかかる	宏 虎
紫に靄る稜線春隣	うつぎ
陽を欲りて天へ徒長す梅の枝	たか子
車窓より瀬戸の島々春隣	董 雨
農小屋に新らしき鋤春隣	みづき
亡き友と曾て来た丘梅探る	菜々
書き始む菜園日誌春隣	かかし
探梅や眼下に播磨灘展け	わかば
探梅行玉の日和を授かりて	はく子
師の句碑の丘へ探梅日和得て	はく子
林道を深々と入り梅探る	素 秀

足長き我が影が先探梅行	なつき
ハミングの洩るる厨や春隣	かかし
魁の白のひと枝梅探る	もとこ
ランドセル背負ふ練習春隣	豊 実
梅探りがたら産土詣でかな	はく子
マネキンの花柄ドレス春隣	満 天
春隣試飲にめぐりす蔵の町	菜々
探梅行一会の人と道づれに	よし子
菅公の国見の丘へ梅探る	菜々
枝々に目鼻を近づけ梅探る	明日香
笹叢の黄金色射し春隣	せいじ
天皇の遠流の島に梅探る	うつぎ
頬撫でる野路の風はや春隣	こすもす
二三人京ことばなり探梅行	よし子

WEB句会みもの選・二〇二二年二月一日